

# 茎ブロッコリー栽培暦

1 特性 圃場の選定 かん水のできる圃場を選ぼう・・・冬期のかん水と追肥が色の濃いものをつくる！

- ・作土が深く、肥沃で保水力があり、排水が良く、ある程度粘土質な土質を好む。
- ・過湿に弱い。
- ・連作はなるべく避ける。

2 作型と品種について 作型を組合せて長期間収穫しよう。

- ・品種「ステイクセニョール」サカタのタネ
- ・アスパラガスに似た甘みのあるスティックブロッコリー。次々と伸びる側花蕾を長期間収穫でき、約20cmの長い側花蕾が15本程度収穫できる。

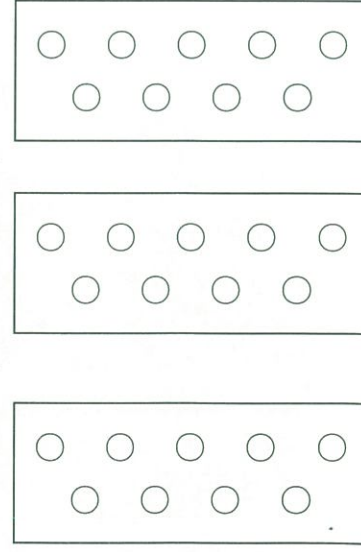
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
●	●	△	△	△	△	●	●	△	△	△	△	
⊗				⊗	⊗					⊗	⊗	

●は種期 △定植期 ⊗収穫期

3 育苗・肥料・畦立て・定植について

- ・200穴プラトレーを使用。育苗培土は「栽培上手」を使用
- ・本葉が4～5枚になったら定植する。
- ・排水対策のため高畦とし、収穫開始までに十分に株の成長を促す。

↑ 150cm — 150cm — 150cm



70cm

35～40cm

施肥量 (1aあたり)

- 土づくり資材 (1カ月前までに)

堆肥 200kg  
苦土石灰 10kg  
BMようりん 5kg

- 元肥 (1週間前までに)

硫酸磷安48号 10kg  
または、S604 10kg

- 追肥

NK808 2kg程度/回

4 栽培管理について

- かん水

※ ポイント 頂花蕾が着く前に葉枚数を確保する。太い茎を確保する。

土が乾燥していると草勢が落ち品質・収量の低下を招きます。かん水は少量で回数を多く行う。

- 摘心

植え付け後55日ほどで収穫が始まります。頂花蕾が500円玉くらいになったら花蕾のすぐ下を摘心する。

- 追肥の時期

本葉が8枚の頃と頂花蕾の見え始めた頃に施用し土寄せを行う。春どりは、なかなか肥料が効かないため本葉5～6枚と本葉10～12枚の頃、秋冬より少し早いタイミングで施用する。  
1回目の収穫を終えた後も側枝の生育を促進するために行う。(秋冬どりの作型については、その後1～2回追肥)

5 収穫・出荷について

- 収穫

伸びてきた側枝を花蕾がしまりあるうちに収穫。  
茎の太さ2cm、長さ20cmで収穫する。

※ 収穫遅れは蕾がゆるみ、花が咲くので注意。

- 出荷規格 (主婦営農班専用)

- ・ 蕾の頭から20cmに切り揃え葉をすべて除去する。
- ・ 4本～7本程度で150gとし専用袋に入れる。
- ・ 袋の入り口はセロハンテープで2カ所貼る。
- ・ 「かあちやん野菜」専用シール及び生産者シールをはる。



※※※

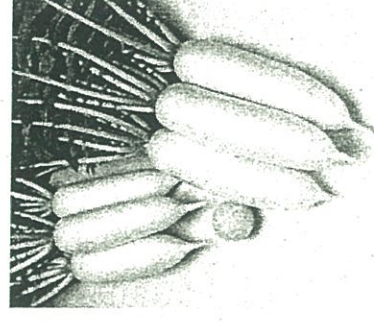
農薬の使用基準を厳守しましょう。安心して消費して消費者に安心をお届けしましょう。  
生産履歴を記帳して効率的な施肥管理を心がけましょう。



# ダイコン 三太郎 栽培暦

## 1 ダイコン「三太郎」(サンタロウ:タキイ育成)の特性

- ・普通のダイコンより短く、標準根長は20~30cm。
- ・株間を調節することにより好みサイズ(0.5~3kg程度)で収穫できる。
- ・抽苔が極めて遅く、耐寒性も強い。秋どり栽培に最適で、厳寒期の冬~春どり栽培にも適する。
- ・短形品種のため比較的耕土が浅い場所での栽培も可能。萎黄病、ウイルス病などの病害にも強い。
- ・肉質は緻密で純白。特に煮ダイコンに適し、味がしみて美味しくおいしい。
- ・割れにくく、ス入りが遅いので長くは場に置き、とり遅れの失敗が少ない。



## 2 作型

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
秋冬どり											
● 播種期    ~~~~~ べたがけ    □ 収穫期											

- ・冬季は不織布をべたがけすると寒さによる傷みを軽減できる。
- ・春まきも可能(3~4月中旬播種)。

## 3 圃場準備

- ・良品生産には堆肥などの有機物を施用し、保水・排水性のよい土作りを行うことが大切。
- ・最適pHは6.5前後。
- ・土作りは、播種1ヶ月前までに完熟堆肥(バーク堆肥など)100kg/a、苦土石灰10kg/aを施用し、十分に耕耘する。

## 4 施肥(1a当たり)

- BMよりりん
- FTE入り硝酸安加里S604 4~6kg

- 追肥 1回目 本葉5~6枚(間引きの終わる頃) ● FTE入り硝酸安加里S604 2kg
- 2回目 本葉10~12枚 ● NK808号 4kg

- ・早播きほど基肥を控えめにする。
- ・追肥は遅れず、肥切れさせないこと。

## 5 栽植密度と収穫サイズ

- ・栽植密度を狭くすると、収穫サイズ(重さ)を小さくすることができる。
- ・栽植密度を変えても、根長(20~30cm)、収穫までの日数はあまりかわらない。
- ・収穫までの日数を長くすると、サイズは大きくなる。
- ・通常の栽植密度では90日以上で2kgを超えるジャンボサイズになる。(栽植密度が狭い場合、生育初期に肥料が多すぎると葉が大きくなり根の肥大や揃いに影響が出るため、基肥を少なくする。)
- ・栽植密度が高い時期の栽培を避ける。
- ・栽植密度を下表より狭めると、肉付きや生育の揃いが悪くなるおそれがある。

栽植密度	重さ kg	畦幅 cm	株間 cm	条間 cm	条数	1a当本数
通常	1.3	100	25	45	2	800
狭い(3条)	1.0	100	20	20	3	1500
狭い(4条)	0.8	120	20	20	4	1670
広い	1.5	100	35	45	2	570

※ 収穫日数60日の場合

## 6 栽培管理

- 播種 1ヶ所 3~5粒程度を、やや間隔をあけてまく。(通常の株間で1a当たり種子50~100ml) 覆土は1~1.5cm

- 間引き 1回目は子葉が展開したところ、子葉の形がハート形のものを残し、丸形、長形のを抜く。 2回目は本葉5~6枚のところ、生育の良い1本を残す。

- 追肥・土寄せ・中耕

- 1 回目の間引きの後、軽く土寄せする。
  - 2 回目の間引きの後、1回目の追肥をし、土寄せする。
- 追肥は畦の肩部に施用する。  
株が安定しないときや台風など強風の前にも、軽く土寄せする。  
畦の表面がたたくとまきなどは、条間を浅く中耕し、根に空気を送る。

- 収穫

播種後60日くらいたち、根の直径が7cm程度になったら収穫できる。  
90日以上たって根が大きくなってから収穫することも可能。  
根元を持ってゆっくり引き抜く。

※※ 農薬の使用基準を厳守しましょう。安心を届けよう。  
生産履歴を記帳して消費者に届けよう。



# 小カブ 栽培暦

## 1 小カブの特性

- ・カブは大きさが直径15cm以上の大カブ、直径12cm程度の中カブ、直径5～6cmの小カブに分けられる。
- ・小カブ専用品種と、収穫時期により大～小カブになる品種（耐病ひかり等）が利用できる。
- ・小カブは葉も付けて出荷するため、特に夏は防虫ネットの被覆や薬剤の使用など病害虫防除が重要である。

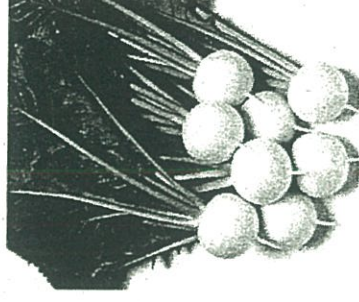
### 各品種の特性

#### ○「CRもちばな」(タキイ) 小カブ

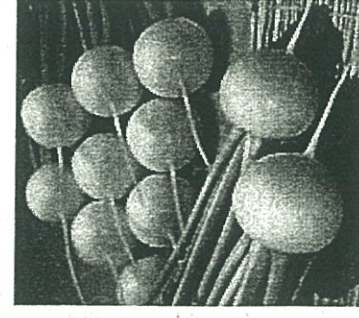
- ・根こぶ病に強く、高温時の栽培でも変形・ス入り・横しま症などが出にくい。
- ・葉軸が徒長しにくく、太く折れにくい。結末がやわらかい。
- ・形状がよく、高温時の根割れやひび割れが少なく、秀品率が高い。
- ・肌は純白でツヤがあり、肉質はやわらかく、食味は甘くておいしい。

#### ○「CR白涼」(トーホク) 小カブ

- ・根こぶ病抵抗性が晩抽性である。
- ・裂根、変形、ス入りが少ない。
- ・葉色が濃くて徒長しにくく葉軸は強く折れにくい。
- ・低温下でも葉伸び、玉の肥大が良い。
- ・形は腰高で肉厚である。

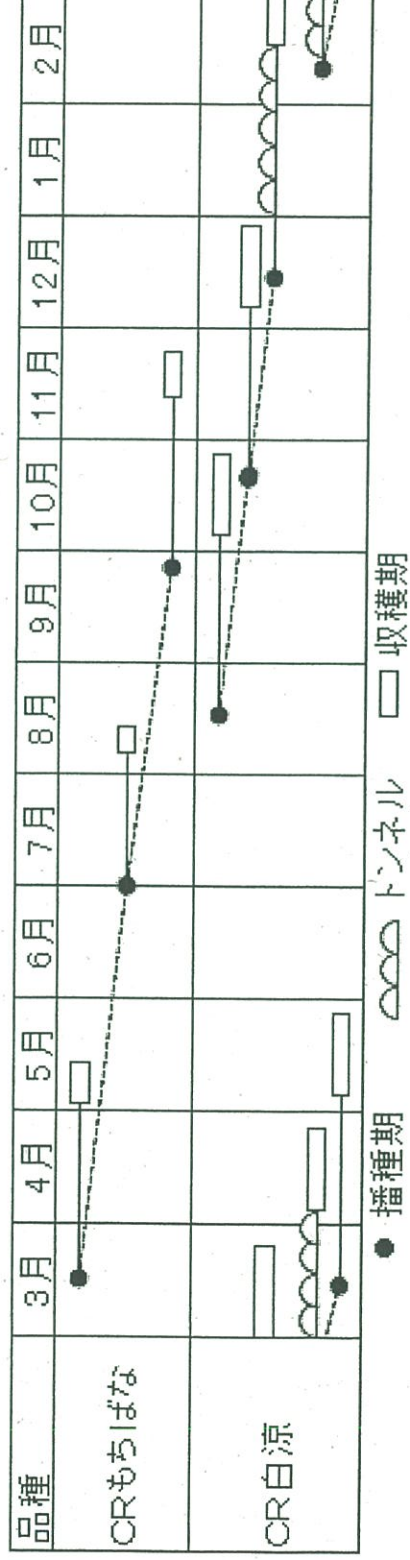


CRもちばな



CR白涼

## 2 作型



- ・2～4月に収穫するには1～3月にトンネル被覆が必要。

## 3 圃場準備

- ・土壌の適応性は高いが、排水良好で保水力に富み、肥沃な土壌を選ぶ。
- ・土が重いと肌が粗くなり、水分が少ないと根が細くなる。
- ・水稻の後作は十分碎土し、排水路を整備して湿害を回避する。
- ・土壌酸度の適応範囲はpH5.2～6.8。
- ・土作りは、播種1ヶ月前までに完熟堆肥（バーク堆肥など）100kg/a、苦土石灰10kg/aを施用し、十分に耕耘する。
- ・畦立ては、適度な土壌水分のときに行い、乾燥しているときは灌水してから作業する。

## 4 施肥（1a当たり）

- 基肥
- BMようりん 5kg
  - FTE入り硝酸安加里S604 8kg

- ・成分量(kg/a)でチッソ：1.1～1.8、リン酸：1.2～2.0、カリ：1.0～1.8 を目安に施用する。
- ・なるべく、播種5～7日前には施用し、土となじませる。
- ・追肥はしない。

## 5 栽培管理

### ○播種

土壌水分が十分なときに行う。  
畦幅120cm、条間13～18cm、株間13～15cmに<sup>3～5</sup>粒ずつ、5条まきする。  
播種量は、コート種子で3,500～4,000粒/a（9～12m<sup>2</sup>）  
覆土は1cm程度、軽い土は板などで鎮圧して土壌水分が逃げないようにする。  
キスジノミハムシ等を防除するため、スタークル粒剤を播種時6g/m<sup>2</sup>土壌混和する。

- 防虫ネット被覆 気温が高い時期は、播種後、害虫防止のための被覆資材（サンサンネットなど）をトンネルがけする。

### ○中耕土寄せ

間引きが終わったら、中耕土寄せする。  
生育初期に降雨により畦の表面がたたくしまったときは、条間を浅く中耕し、根に空気を送る。

### ○収穫

肥大を見ながら、根の直径が6cm程度になったら収穫する。

※※ 農薬の使用基準を厳守しましょう。  
※※ 生産履歴を記帳して消費者に安心を届けよう。



# ミニ白菜（お黄にいり）栽培暦

JA 美馬 女性部主婦営農班

## 1 特長

- ・大玉の4分の1ほどの食べきりサイズで収穫できる極早生品種。移植栽培では定植後40日で収穫できる。
- ・耐病性（べと病、軟腐病に強い）に優れている。外葉はコンパクトで極立性となり、密植栽培でも玉ぞろいがよい。
- ・球内色は鮮やかな黄色で肉質は歯切れが良く、漬物、煮物、炒め物はもちろんサラダ用にも適する。

## 2 ほ場準備

- ・排水の良い肥沃な圃場を選ぶ。（はくさいは乾燥に強いが、多湿に弱い。）
- ・連作を避け、根こぶ病の発生（アブラナ科野菜を連作すると発生しやすい）が心配される場合には薬剤処理をする。
- ・根張りをよくするために完熟堆肥（200kg/a）を施用する。

## 3 作型

露地	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
		● - X	—	—	—	—	—
			●	—	—	—	—
				—	—	—	—
				X	—	—	—

● 播種 --- 育苗 × 定植 — 生育 □ 収穫

## 4 栽培管理

- 栽植密度 条間25cm 3～4条植え 株間20～25cm (超密植栽培で球重600g～700gのミニサイズで収穫する！)
- 施肥量 早どりのため、初期生育を順調に進めることが重要！（前作の地力により加減）元肥の過剰施肥は外葉ができすぎ、結球が遅れる。また、生育後半の病害やゴマ症発生の原因となるので、一般大玉栽培に比較し少なめにすること！  
石灰欠乏症が発生しやすいため、石灰肥料を施用すること！

元肥、土作り：苦土石灰

いざなみ 755 14～20kg/a (N成分1～1.4kg/a)

追肥（芯葉立ち上がる時期）：NK化成808号 1.4～1.7kg/a (N成分0.25～0.3kg/a)

追肥（結球開始期）：NK化成808号 1.4～1.7kg/a (N成分0.25～0.3kg/a)

## ○ 播種

（直まき栽培） はくさいは直根性の作物なので、直まき栽培では広い根群を確保することができる。  
1か所4～5粒点播

間引きは本葉1～2枚時に3本に、6～7枚時に最終間引きする。  
（初期の生育競合による生育促進のため。早めに1本立ちにしない！）

## （移植栽培）

セルトレイにセル苗用の専用培土を詰め、播種前に十分かん水を行い、播き溝を付け播種する。  
育苗時期は暑い時期のため温度を下げるため遮光等を行う。

かん水は天候をみながら行う。できるだけ午前中に行う。

高温時期にはハイマットやメイガの被害が多い。育苗での害虫の防ぐためには、苗床やトレイの上に播種直後から防虫ネットや寒冷紗をかけて管理する。

育苗日数は15～20日程度。育苗期間の後半は、できれば屋外で育苗し苗をしめる。

本葉3～4枚で定植する。はくさいは直根性の作物なので、若苗で植えるようにする。

## 5 病害虫

- ・根こぶ病：アブラナ科作物に寄生する根こぶ病菌でかび（糸状菌）の一種。心配なほ場には薬剤を土壌混和。
- ・べと病：外葉だけでなく、葉柄中肋部に「茎べと」症状が発生する場合がある。筋状の黒点が現れ、進行するとその部分が陥没し灰白色のカビを形成する。病原菌はかび（糸状菌）の一種。多湿条件で発生しやすい。被害を認めたら、早めに薬剤散布する。
- ・軟腐病：高温多湿条件で発生しやすい。細菌性の病気。アグリマイシン100
- ・ハイマッドラノメイガ：芯部を食害するので、本葉が2枚頃苗をよく観察し、発生が見られたら防除する。
- ・ハスモンヨトウ、オオタバコガ：定植後に被害が多くなるので、発生初期にいていねいに防除する。
- ・アブラムシ類：10～11月頃発生が多くなり、秋季が高温だと発生が多い。ウイルス病を媒介するため、発病すると商品価値が低下するため、ほ場の発生状況をよく観察して防除する。

## 6 生理障害

- ・チッ素過剰：葉にゴマ粒状の斑点が出るゴマ症
- ・カルシウム欠乏症：葉が褐変したり、芯腐れ症状
- ・ホウ素欠乏症：生長点部や葉柄部が褐変する
- ・生育のパラランスが崩れると一時的に発生する場合がある。また、過乾湿によって根が傷んだ場合にも発生する。

## 7 収穫

- ・手で頭をおさえ固くしまったものを収穫する。球を斜めに押し倒し、外葉との間に包丁を入れて切り取る。
- ・収穫が遅れると品質が低下するため、適期収穫を！

※※ 農薬の使用基準を厳守しましょう。生産履歴を記帳して消費者に安心を届けよう。